

新たな時代の開拓者

持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals、以下SDGs）が国連サミットで採択されてから、今年9月で丸2年を迎える。SDGsの達成に向けて大きな役割を担うと期待されているのが、民間企業だ。企業はSDGsにどのような可能性を見出しているのか。そして、ビジネスの在り方は今後どう変化していくのか。——。新しいステージへと歩み始めた企業の挑戦に迫る。

編集協力：グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパン（GCNJ）理事 後藤敏彦

持続可能な社会の実現は企業の至上命題の一つ

最近、メディアなどでも耳にする機会が増えてきた「SDGs」。あなたはこの言葉を聞いたことがあるだろうか。持続可能な開発目標（SDGs）は、誰一人取り残さない、世界の実現を目指す。国際社会が2030年までに達成すべき課題を掲げた世界共通の目標だ。2015年9月に開かれた国連サミットで採択され、貧困、都市問題、地球環境などに関する17の目標達成に向けた取り組みが、全世界で始まっている。

一般社団法人グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパン（GCNJ）の後藤敏彦理事は、SDGs達成のためには民間企業の果たす役割が重要だと訴える。「さまざまな財・サービスを提供し、経済や社会を回している主体は民間企業です。その企業の取り組みなくして、社会課題は解決できません」。GCNJには、社会課題の解決に取り組む248の国内企業・団体（今年7月現在）が加盟し、SDGsをテーマとする分科会や、企業の動向調査などを行っている。「自社の事業が実はSDGsの課題につながっているのだという気が少しずつ生まれています。また、自社の経営資源でどの課題に取り組めばビジネスがより発展するのかわかる企業も出ています」

企業がSDGsと向き合い始めた背景として、ここ数年、日本でESG（環境・社会・ガバナンス）を重視する「ESG投資」に対する関心が高まっていることが考えられる。「ESGを重視する投資家の期待に応えるため、企業は中長期のビジネスモデルの構築を求められています。ESGとSDGsへの取り組みは、持続可能な社会をつくる」という点で共通しているため、SDGsの目標を経営戦略に取り込もうとする企業が増えているのです」と後藤理事は説明する。

こうした動きは世界でも広まっている。例えば、CO₂削減が課題となっている自動車産業をみると、インド政府

こんなところにも！ 身近なSDGs

SDGsが目指す持続可能な社会づくりには、さまざまなイノベーションが必要だ。企業の持つ技術やアイデアは、開発途上国や日本国内のさまざまなところで生かされている。

誰にでも分かりやすい 「ユニバーサルデザイン」を 大日本印刷株式会社

私たちが住む社会には、さまざまな個性を持つ人たちがいる。言葉・色づかいなどのデザインや、パッケージの構造を工夫すれば、言葉や年齢、性別、障害などの違いを超えて、全ての人が商品やサービスの使い方を一目で理解できるようになる。この企業が目指すのは、そんな誰もが快適に、安心して暮らせるユニバーサル社会の実現だ。



まだ食べられるものを届ける「フードバンク」 セカンドハーベスト・ジャパン

世界では、消費期限や選別などの問題で、食料生産量の3分の1にあたる年間約13億トンの食料が廃棄されている。一方、日本では今、全人口の約6人に1人が貧困状態にある。まだ食べられるにもかかわらず廃棄される食料を、食べ物に困っている人々に届けるフードバンクは、環境問題と社会問題を同時に解決しようという挑戦的な取り組みだ。



Photo by Natsuki Yasuda / studio AFTERMODE

農産物加工で女性の仕事をつくる 大紀産業株式会社

食品乾燥機を使ってスーダン特産のタマネギを女性たちの手で加工し、地域経済を活性化するとともに女性の雇用創出を目指す。地域に根差したこの取り組みは、女性の自立を後押しし、社会を豊かにする。全人類の半分を占める女性たちの能力が開花し、社会に積極的に関わっていくことは、社会全体を発展させるために不可欠の条件だ。



近所の売店で電気を量り売り 株式会社Digital Grid

今や途上国でも急速に普及する携帯電話や、日常生活を照らす電灯。しかし、農村部を中心に、電気が供給されていない地域もまだ多い。そんな場所でも、ソーラーパネルとバッテリーさえあれば、発電や給電ができる。電気を「量り売り」するこの取り組みによって、タンザニアの人々の生活を支える近所の売店（キオスク）で、誰でも電気を買える時代が来る。



日本初の「スローシティ」として復興 宮城県気仙沼市

都市化の進行や経済の発展は、それと並行して自然環境への負荷や生活環境の悪化をもたらしがちで、時には発展に取り残される人もいる。また、災害に対する十分な備えがなければ、繁栄も一瞬で失われてしまう。全ての人が安心して暮らせるまちづくりを、行政と住民が協力して行っていく。



水資源を使わずにオフィスで紙を再生 セイコーエプソン株式会社

資源は無限ではない。より効率的な資源の利用のためには、無駄な消費を減らすことや、資源を浪費しない生産が重要だ。毎日オフィスで大量に消費・廃棄される紙を、水を使わずにその場で再生し、再び利用できるオフィス製紙機「PaperLab」は、生産・消費の在り方を変えたと同時に、機密情報保護も可能にする。



高品質コーヒーで収入を増やし、森を保護 UCC上島珈琲株式会社

世界の気温上昇を抑え、気候変動の影響を少しでも和らげる手段の一つが、二酸化炭素を吸収してくれる森の保護だ。コーヒーの故郷エチオピアで、収穫されるコーヒーの品質向上に取り組むことで、コーヒーの価値と買い取り価格が上昇。農家の収入が増え、過度な森林伐採をしなくても済むようになっている。



製紙用パルプは自社グループの植林で エイビーピー・ジャパン株式会社

私たちは動物や植物などの自然から、多くの恩恵を受けて生きている。これから先も自然の恩恵を享受するためには、生態系を保護・回復することが必要だ。森の木を使って紙を作るのだから、その木を自分たちで植え、貴重な自然林を保護していくというのが、製紙メーカーであるこの企業の考え。森への、ちょっとした恩返しだ。



SDGsの採択から丸2年。表裏一体の関係にある社会の繁栄と企業の発展を目指して、今まさにビジネスの在り方が問われている。

「SDGsの採択から丸2年。表裏一体の関係にある社会の繁栄と企業の発展を目指して、今まさにビジネスの在り方が問われている。」

今後の課題について、後藤理事は、企業の中でも特に中間管理者層への働き掛けを挙げる。「経営層やCSR部門にはだいぶ浸透してきましたが、それ以外の中間層は業績を上げることだけに一杯で、SDGsについて考える余裕がないのが現状です。そもそも日本では、公益活動は国家が担うものだという考えが根付いているため、無意識のうちに自分たちの役目ではないとの思い込みが働くのです。この思い込みを取り払うことが当面の目標です」

SDGsの採択から丸2年。表裏一体の関係にある社会の繁栄と企業の発展を目指して、今まさにビジネスの在り方が問われている。

「SDGsの採択から丸2年。表裏一体の関係にある社会の繁栄と企業の発展を目指して、今まさにビジネスの在り方が問われている。」

「SDGsの採択から丸2年。表裏一体の関係にある社会の繁栄と企業の発展を目指して、今まさにビジネスの在り方が問われている。」

「SDGsの採択から丸2年。表裏一体の関係にある社会の繁栄と企業の発展を目指して、今まさにビジネスの在り方が問われている。」

「SDGsの採択から丸2年。表裏一体の関係にある社会の繁栄と企業の発展を目指して、今まさにビジネスの在り方が問われている。」